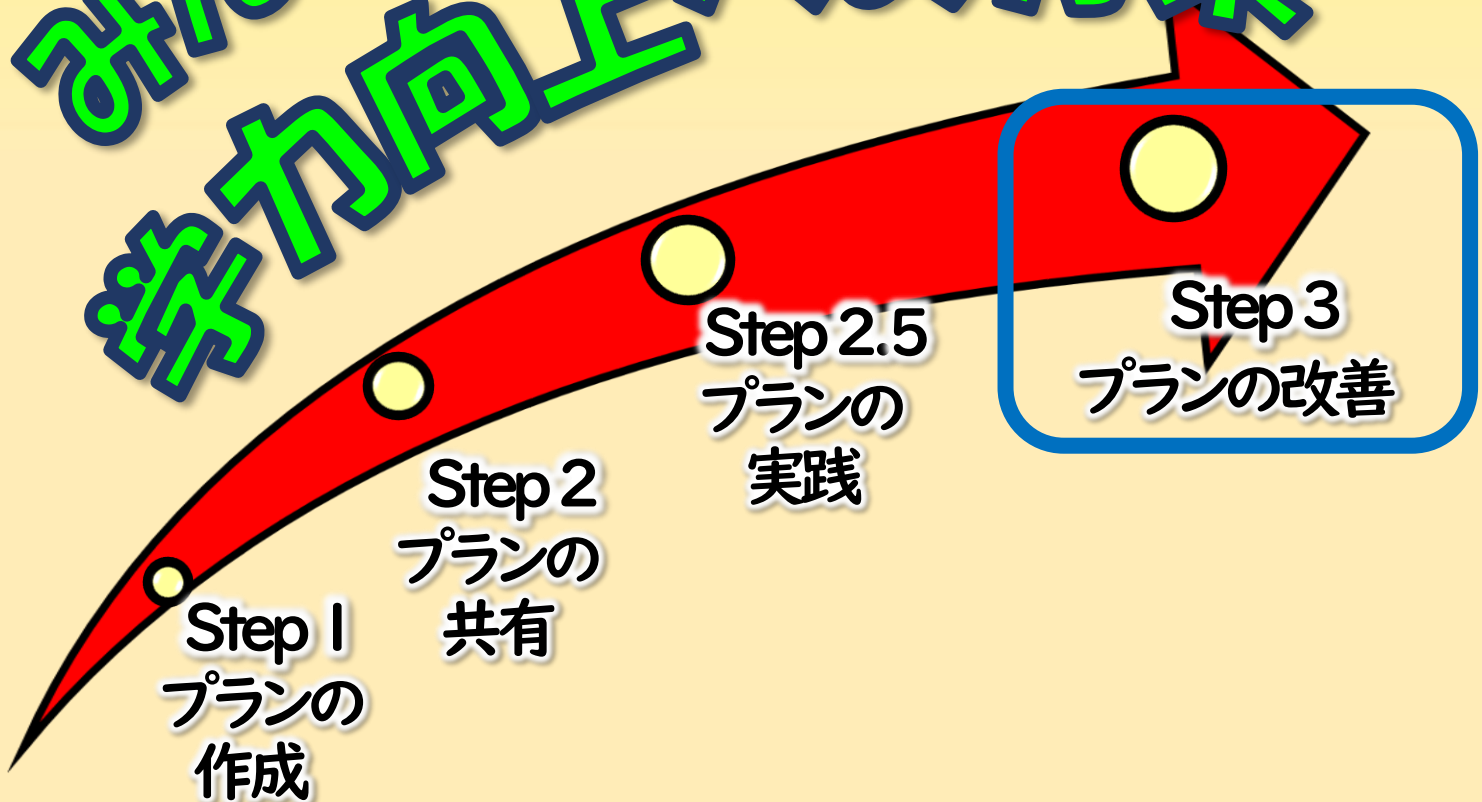


くるめ版 学力向上のすすめ vol. 3

みんなで作ってみよう 学力向上への方策



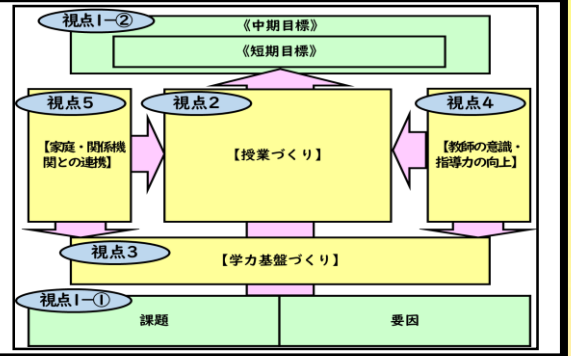
- 1 学力向上班の調査研究の概要
- 2 オリジナル「授業スタンダード」「学習評価アンケート」の作成
(合川小、京町小、三潴小)
- 3 「授業スタンダード」「授業評価アンケート」の活用 (合川小)
- 4 「授業評価アンケート」の活用 (京町小、三潴小)
- 5 Q-Uテストを活用した児童の実態把握 (城島小)
- 6 調査研究校 (小学校4校) の取組から見えてきた成果
- 7 視点2【授業づくり】、視点3【学力基盤づくり】の取組
(青陵中、牟田山中、北野中)
- 8 視点5【家庭等との連携】、視点4【職員の意識・指導力の向上】
の取組 (青陵中、牟田山中、北野中)
- 9 調査研究校 (中学校) の取組から見えてきた成果
- 10 3年間の調査研究の総括

これまでの学力向上に係る調査研究の概要です



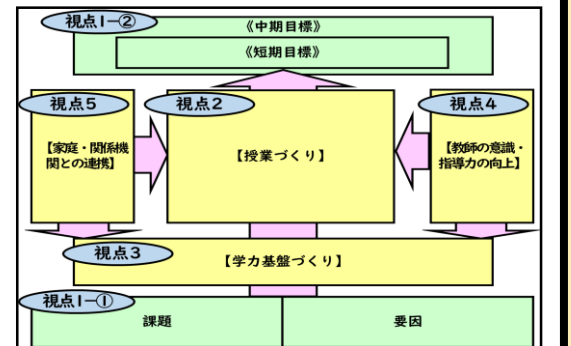
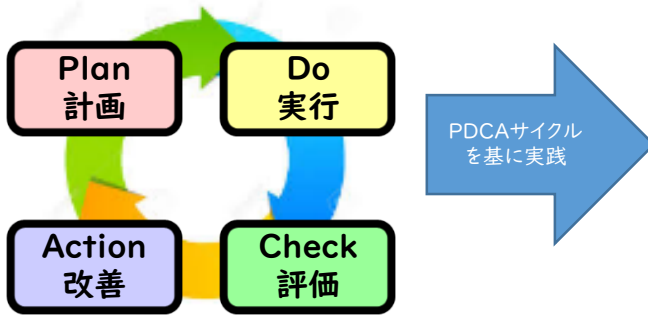
Step1 学力向上プランの作成

- ・課題の分析
- ・要因の検討
- ・目標の設定
- ・取組の設定



Step2 学力向上プランの共有 (みんなのものに)

Step2.5 学力向上プランの実践 (やってみる)



Step3 学力向上プランの改善のポイント

調査研究協力校紹介

小学校 (4校)

- 合川小学校 (R1~R3)
- 城島小学校 (R1~R3)
- 京町小学校 (R3)
- 三瀬小学校 (R3)

中学校 (3校)

- 青陵中学校 (R1~R3)
- 牟田山中学校 (R3)
- 北野中学校 (R3)

※ () 内の期間は、調査研究協力校としての期間

各調査研究協力校の取組を基に、具体的な効果のある授業改善(学力向上)の方策を紹介します!



vol. 3では
ここを中心に
紹介

2 合川小、京町小、三潞小の取組の共通点は？



令和3年度 久留米市立〇〇小学校 学力向上プラン

<p>【中期目標】(成果指標)一人一人の表現力、話し合う力を高め、学び合う子供の育成 (成果指標)令和3年度の全国調査の標準化得点：国語 1.0以上 算数 1.0以上</p> <p>【短期目標】主体的に学習に取り組み、基礎・基本を確実に習得し、状況に応じて活用できる子供の育成 (成果指標)令和3年度の全国調査の標準化得点：国語9.0以上 算数9.0以上 (令和4年度調査学力調査【中1】において、標準化得点 国語9.5 算数9.5 以上)</p>	<p>【授業づくり】</p> <p>【基礎・基本の確実な習得】</p> <p>【取組】(指標)</p> <p>①7つのステップを意識した授業(内容の焦点化、まとめで主題の一致した授業(1単元時間)で習得する知識や技能を明確にするために、習得し、めあてを定めて主体的に学習する)</p> <p>【成果】(指標)</p> <p>①習熟度(1学期3.0以上、2学期3.0以上)</p> <p>②算数科において、習得した内容を、自分の考えを表現する力の育成(数式を用いて関わり式と関連させ、自分の考えを書く活動やペアで自分の考えを説明する活動、互にフィードバックの授業(毎時実施))</p> <p>【成果】(指標)</p> <p>①算数科において、4段階評価で、4段階評価</p> <p>②算数チェックリストを活用した交流活動の向上(活用毎に向上)</p>	<p>【教員の力】</p> <p>①主体的に学習する子供の育成</p> <p>②基礎・基本の確実な習得</p> <p>③主体的に学習する子供の育成</p> <p>④主体的に学習する子供の育成</p> <p>⑤主体的に学習する子供の育成</p> <p>⑥主体的に学習する子供の育成</p> <p>⑦主体的に学習する子供の育成</p>
--	--	---

学力向上プラン視点2【授業づくり】
1 「授業スタンダード(学習過程)」の作成
2 「授業評価アンケート」を関連させた取組

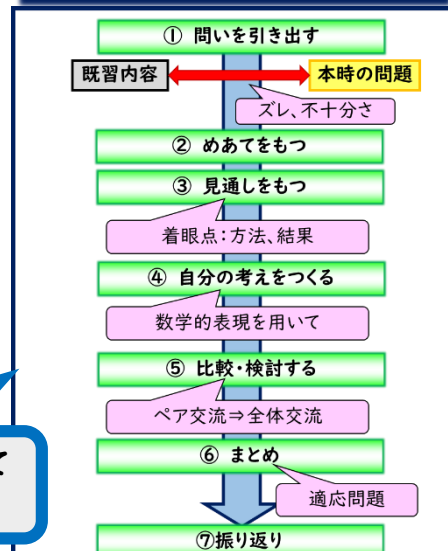
1 「授業スタンダード(学習過程)」の作成

くるめ授業スタンダードを基に

オリジナル授業スタンダード(例)

【ポイント②】子どもの思考を促す発問	【ポイント①】問題解決的な授業展開	【ポイント③】子どもの姿で授業評価
<p>1 既習とのズレ、考えのズレを意識させる発問 「前の学習と比べてどう思う?」「どれが正しい?」</p> <p>2 自分で「めあて」を考えさせる発問 「今日はどんな「めあて」で学習したいですか?」</p> <p>3 視点を明確にする発問 「何に注目して考えようか?」「どうやって解決できるか?」「どんな方法で解決できるか?」「既習が生かせるか?」</p> <p>4 「主眼点」「着眼点」「理由」を意識させる問い直し 「どうして〇と考えたの?」「どうして〇からそう言えるの?」</p> <p>5-1 交流を機能させるコーディネート ①「自分の考えに賛同しないかな?」 ②「自分の考えに賛同する人はいないかな?」 ③「自分の考えを代わりに説明できるかな?」</p> <p>5-2 視点を改めて考えさせる発問 「こんな考えの人はいないか?」「もしなかったらどうなるか?」「こんな考えではいけないかな?」</p> <p>6 自分で「まとめ」を考えさせる発問 「今日の学習で大切な言葉は何かな?」「今日の学習で大切な言葉は何かな?」「今日の学習で大切な言葉は何かな?」</p> <p>7-1 学びを確認する発問 「今日の学習で大切な言葉は何かな?」「今日の学習で大切な言葉は何かな?」</p> <p>7-2 振り返りの視点の提示 「今日の学習で大切な言葉は何かな?」「今日の学習で大切な言葉は何かな?」</p>	<p>ステップ1 問いを見いだす活動 【導入】</p> <p>ステップ2 「めあて」を設定する活動</p> <p>ステップ3 既習や既習経験を根拠に解決の見直しをもつ活動</p> <p>ステップ4 自分の考えを根拠を基に理由付けて書く活動</p> <p>ステップ5 考えを練り合う活動</p> <p>ステップ6 「まとめ」を整理する活動</p> <p>ステップ7 学びを振り返る活動</p>	<p>各ステップでめざす子どもの姿</p> <p>①「なぜだろう?」「どうなっているのかな?」「どうしたらいいのかな?」</p> <p>②「今日はこんな「めあて」で学習したいな」「こんな疑問を解決したいな」</p> <p>③「たぶんこうだと思う、なぜなら...」「さっきこうすればいいと思う、なぜなら...」</p> <p>④「わたしは〇だと思います、なぜなら〇から〇だと考えられるからです」</p> <p>⑤「〇さんはどう考えたのだと思います?」「〇さんの考えに賛同です、なぜなら...」「〇さんの考えを聞いて考えが変わりました、なぜなら...」</p> <p>⑥「〇という言葉を使ってまとめを整理しています」</p> <p>⑦「〇という言葉を思い出して振り返っています」</p>

各ステップ(学習段階)を意識してオリジナルの学習過程を作成



2 「授業評価アンケート」を関連させた取組

くるめ授業スタンダードを活用

授業アンケート(例)

【ポイント②】子どもの思考を促す発問	【ポイント①】問題解決的な授業展開	【ポイント③】子どもの姿で授業評価
<p>1 既習とのズレ、考えのズレを意識させる発問 「前の学習と比べてどう思う?」「どれが正しい?」</p> <p>2 自分で「めあて」を考えさせる発問 「今日はどんな「めあて」で学習したいですか?」</p> <p>3 視点を明確にする発問 「何に注目して考えようか?」「どうやって解決できるか?」「どんな方法で解決できるか?」「既習が生かせるか?」</p> <p>4 「主眼点」「着眼点」「理由」を意識させる問い直し 「どうして〇と考えたの?」「どうして〇からそう言えるの?」</p> <p>5-1 交流を機能させるコーディネート ①「自分の考えに賛同しないかな?」 ②「自分の考えに賛同する人はいないかな?」 ③「自分の考えを代わりに説明できるかな?」</p> <p>5-2 視点を改めて考えさせる発問 「こんな考えの人はいないか?」「もしなかったらどうなるか?」「こんな考えではいけないかな?」</p> <p>6 自分で「まとめ」を考えさせる発問 「今日の学習で大切な言葉は何かな?」「今日の学習で大切な言葉は何かな?」</p> <p>7-1 学びを確認する発問 「今日の学習で大切な言葉は何かな?」「今日の学習で大切な言葉は何かな?」</p> <p>7-2 振り返りの視点の提示 「今日の学習で大切な言葉は何かな?」「今日の学習で大切な言葉は何かな?」</p>	<p>ステップ1 問いを見いだす活動 【導入】</p> <p>ステップ2 「めあて」を設定する活動</p> <p>ステップ3 既習や既習経験を根拠に解決の見直しをもつ活動</p> <p>ステップ4 自分の考えを根拠を基に理由付けて書く活動</p> <p>ステップ5 考えを練り合う活動</p> <p>ステップ6 「まとめ」を整理する活動</p> <p>ステップ7 学びを振り返る活動</p>	<p>各ステップの学習活動を意識してアンケート項目の内容を作成</p>

各ステップの学習活動を意識してアンケート項目の内容を作成

国語 授業についてアンケート(国語科)

令和3年 月 日

質問	とても	たいてい	あまり	ほとんど
	◎	○	△	×
1 授業のはじめに「どうなっているのかな?」「なぜだろう?」「どうしたらいいのかな?」等をしている。				
2 めあてが分かり、自分の考えを明らかにしている。				
3 自分で「こんなふうにしたらいいかな?」「さっきこうすればいいかな?」と話し合っている。				
4 自分の考えを言うときに、その理由を説明している。				
5 議論の過程を聞いて、自分の考えを大きくしたり、ちがいがわかったりする。				
6 授業のおおむね、自分のことばで(発言や話し言葉)「まとめ」を考えたりしている。				
7 その時間、どんな方法でできるかな?」「どうやって解決できるかな?」など、振り返りしている。				

3 「授業スタンダード、授業評価アンケート」の活用とは？（合川小）



1 「学習過程の7つのステップ」（授業スタンダード）

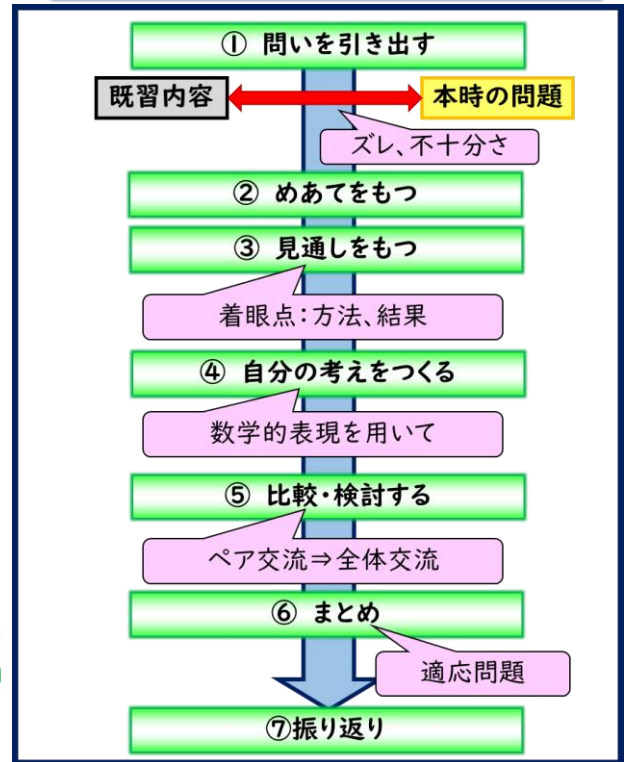
※日常の活用例

- ⇒算数科を中心に展開
- ⇒週指導計画に①～⑦の段階における主活動を明記
- ⇒校内研修等におけるリフレクションの観点

日常的に7つのステップを意識し、点検・評価することがポイント！



合川小オリジナル 学習過程の7つのステップ



2 「授業評価アンケートの活用」

算数アンケート（児童による授業評価）

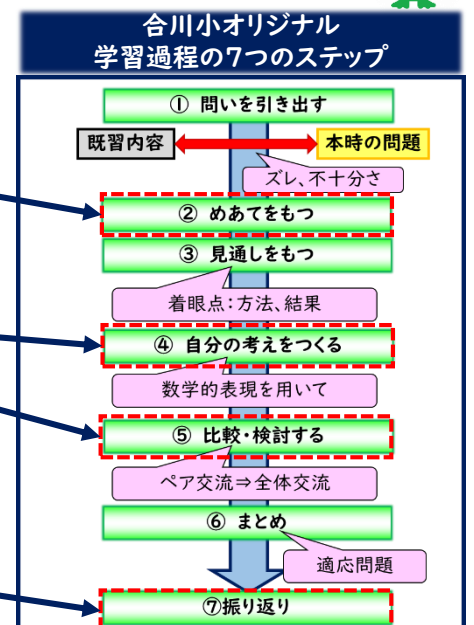
※4段階評定法で回答

【4できた 3まあまあできた 2あまりできなかった 1できなかった】

アンケート項目を、下の7つのステップに関連して作成



- ① 今日の学習のめあてを自分で考えることができましたか？
- ② 図、式、表、グラフなどを使って、自分の考えを書くことができていますか？
- ③ 自分の考えを友達に説明したり、友達の考えを聞いて、自分のノートに付け加えたりすることができていますか？
- ④ 今日の学習でわかったことを自分の言葉で書くことができていますか？



各学期ごとに算数アンケートを実施

2 「授業評価アンケートの活用」

A学級の事例を基に、取組を紹介します!



1学期のアンケート結果(平均値)

①めあて	②個人思考	③交流	④振り返り
3.0	3.1	2.7	2.8

結果を分析し、数値の低い項目を重点的に改善

2学期のアンケート結果(平均値)

①めあて	②個人思考	③交流	④振り返り
3.0	3.1	3.2	3.3

↑ up ↑ up

児童生徒による客観的なデータや7つのステップとの関連を図ることで、段階ごとに焦点化して授業改善における支援等の在り方について、同学年等と協議を深めることにつながります。



3 取組の効果

※各種学力調査

5年生：福岡県学力調査

6年生：全国学力・学習状況調査

※標準化得点 = 自校平均正答数 ÷ 県平均正答数 × 100

※三潴小、京町小、城島小も同様

□ 各種学力調査における標準化得点による比較（同集団比較）

R02（5年生）



R03（6年生）

合川小学校の結果

国語

6.7UP



算数

10.4UP



□ 授業評価アンケート（児童用）一部抜粋

Q：授業の中で「何でだろう?」「やってみたい」「できるようになりたい」と思う場面がある。

【4 そう思う 3 どちらかと言えばそう思う 2 どちらかと言えばそう思わない 1 そう思わない】

1学期

3.1



UP ↑

2学期

3.21



非認知能力に係る面もUP!

4 「授業評価アンケート」の活用とは？

(京町小、三潞小)

※2校の共通点を中心に紹介



1 「授業評価アンケート」の作成

2校とも、「授業スタンダード」は
くるめ授業スタンダードを活用。



くるめ授業スタンダード	ポイント① 子どもの思考を促す授業	ポイント② 問題解決的な授業展開	各ステップをめざす子どもの姿
1 既習のズレ、考えのズレを認識させる期間 「既習と比べてみてどう思う?」「何が違う?」	ステップ1 【導入】 問いを問い出す活動	「なぜだろう?」「どうしてだろうか?」 どうしたらいいのかな?	
2 自分で「めあて」を考えさせる期間 「めあてがなくて学習したいですか?」	ステップ2 【めあて】 「めあて」を設定する活動	今日はこんな「めあて」で学習したいな こんな疑問を解決したいな	
3 問題を解く期間 「自分で考えてみる期間でいいかな?」「 どんな方法で解決できるかな?」「 「既習を生かせるかな?」	ステップ3 【見直し】 既習や既習の経験も積極的に 解決の見直しをもつ活動	「なんで?」「どうして?」 「なんで?」「どうして?」 「なんで?」「どうして?」	
4 「質問」「疑問」「問題」を認識させる期間 「わかっていないところを質問したいですか?」	ステップ4 【他人思考】 自分の考えを理由を基に 理由付けて書く活動	わかっていないところを なぜか口から出さず考えられるかな?	
5-1 友達を補助させるコーディネート 「どうもか質問したいかな?」 「どうもか質問したいかな?」 「どうもか質問したいかな?」 5-2 既習を思い出させる期間 「こんな考えも思い出してどう?」 「思い出してどうなるかな?」	ステップ5 【まとめ】 考えを振り返り活動	「どうもか質問したいかな?」 「どうもか質問したいかな?」 「どうもか質問したいかな?」	
6 自分で「まとめ」を考えさせる期間 「今日の学習でどんな疑問があった?」 「今日の学習でどんな疑問があった?」	ステップ6 【振り返り】 学びを振り返る活動	今日の学習でこんなことがあった こんな方法を解決できた 学習にはできなかったことがあった	
7-1 学びを確かめる期間 「今日の学習でどんな疑問があった?」 「今日の学習でどんな疑問があった?」			

関連

京町小オリジナル 授業評価アンケート

国語 授業についてアンケート(低学年)

各30分 月 日

質問	とても	だいたい	あまり	まったく
	◎	○	△	×
1 授業のはじめに「どうなるかな?」「 のかな?」と問いかける。				
2 めあてが分かり、自分から疑問を かき出すことができる。				
3 疑問の答えを自分なりに考えている。				
4 めあてが達成できたら、自分の考えを 振り返り、振り返り活動をする。				
5 疑問の答えを自分なりに考えている。				
6 疑問の答えを自分なりに考えている。				
7 疑問の答えを自分なりに考えている。				

関連

2校とも、くるめ授業スタンダードの各ステップの学習活動と
関連させてアンケート項目の
内容を作成。

三潞小オリジナル 授業評価アンケート

学期末振り返りアンケート(2学期)

※「1」…90点以上、「2」…80~70点、「3」…60~50点、「4」…40点以下

番号	内容	よくできた	まあまあ	できていない
1	チャレンジタイムをがんばりましたか。	4	3	2
2	教室の掃除をよくすることができましたか。	4	3	2
3	自分の考えを発表することができましたか。 ※1時間以上1回以上、手をあげたりペアやグループで発表する。	4	3	2
4	めあてに対して学習のまとめや振り返りを書くことができましたか。	4	3	2
5	自分の考えを思いやりあたりで伝えたり、友だちの考えを聞いて りして、自分の考えを確かめたりすることができましたか。	4	3	2
6	授業で習った内容を、クイズやカードゲーム(クイズ)、ア ジカマなどを使って学習することができましたか。	4	3	2
7	自分で学習した内容を振り返ることができましたか。 ※下学年…週2回以上、上学年…週1回以上	4	3	2
8	外国語活動、外国語の学習は楽しくできていますか。	4	3	2
9	家庭学習を自分で進めることができましたか。 (学年に合わせた時間、おられる前に自分から)	4	3	2
10	外で元気な遊びができましたか。	4	3	2
11	めあてをもって、課題に取り組むことができましたか。	4	3	2
12	「めあて」を達成させることができましたか。	4	3	2
13	振り返りを振り返ることができましたか。	4	3	2
14	友だちに対して思いやりの言葉をかけることができましたか。	4	3	2
15	友だちと協力して学習したり、手伝うことができましたか。	4	3	2
16	自分で進んで学習することができましたか。	4	3	2
17	学校のきまりを守って過ごすことができましたか。	4	3	2

2校とも、各学期末に
アンケートを実施。

2 「今後の重点目標を設定」

三潞小学校の取組

アンケートを活用して重点を焦点化

- ① 「めあて、まとめ、振り返り」に重点
- ② 各学期のアンケート結果から課題等を分析
- ③ 各種テストや分析結果から改善策を学年や部会で検討

学習過程における重点項目を設定し、焦点化してアンケート結果を分析しながら検討していくことも授業改善に向けて有効!



学期末振り返りアンケート(2学期)

※「1」…90点以上、「2」…80~70点、「3」…60~50点、「4」…40点以下

番号	内容	よくできた	まあまあ	できていない
1	チャレンジタイムをがんばりましたか。	4	3	2
2	教室の掃除をよくすることができましたか。	4	3	2
3	自分の考えを発表することができましたか。 ※1時間以上1回以上、手をあげたりペアやグループで発表する。	4	3	2
4	めあてに対して学習のまとめや振り返りを書くことができましたか。	4	3	2
5	自分の考えを思いやりあたりで伝えたり、友だちの考えを聞いて りして、自分の考えを確かめたりすることができましたか。	4	3	2
6	授業で習った内容を、クイズやカードゲーム(クイズ)、ア ジカマなどを使って学習することができましたか。	4	3	2
7	自分で学習した内容を振り返ることができましたか。 ※下学年…週2回以上、上学年…週1回以上	4	3	2
8	外国語活動、外国語の学習は楽しくできていますか。	4	3	2
9	家庭学習を自分で進めることができましたか。 (学年に合わせた時間、おられる前に自分から)	4	3	2
10	外で元気な遊びができましたか。	4	3	2
11	めあてをもって、課題に取り組むことができましたか。	4	3	2
12	「めあて」を達成させることができましたか。	4	3	2
13	振り返りを振り返ることができましたか。	4	3	2
14	友だちに対して思いやりの言葉をかけることができましたか。	4	3	2
15	友だちと協力して学習したり、手伝うことができましたか。	4	3	2
16	自分で進んで学習することができましたか。	4	3	2
17	学校のきまりを守って過ごすことができましたか。	4	3	2

2 「授業評価アンケートに基づいたワークシートの作成」



右にあるワークシートを作成し、授業評価アンケート結果を分析しながら、下記の手順で授業改善に向けた具体的な支援の在り方を検討していきます。

※左右の○番は連動しています。

- ① 各学期に実施した結果を比較し、授業改善の成果と課題を分析
- ② 分析結果から明らかに課題の要因を検討
- ③ 要因から具体的な改善策を作成
- ④ アドバイスを基に再度改善策を作成、そして実践

京町小学校の取組

学力向上に向けた校内研修 ワークシート

学年 (6年) 氏名 ()

1 成果と課題	①
(国語) 科における2学期の授業改善の成果と課題	
【成果】 ①授業のはじめに「どうなっているんだろう」「どうしたらいいのかな」と考えることができている。 ②自分の考えを言うときに、その理由も一緒に考えている。	
【課題】 ①めあてがわかり、自分から勉強をがんばりたいと感じている。 ②1学期よりは、「あまり」「まったく」の割合は減ったが自分の言葉でまとめを考えたり、書いたりしている。	
↓	
2 成果と課題の考えられる要因	②
【成果】 ①導入段階で今まで学習した単元の中で、関連した学習とのずれを考えて、めあてを立てている。 ②ペアやグループで、自分の考えを伝える時間を設定している。	
【課題】 ①子どもたちの言葉でめあてを立てることができていない。 ②自分の言葉でめあてを書く機会が少ない。	
↓	
3 課題における改善策 (個人案)	③
教科 [国語科]	
学習のどの段階で (導入・展開・終末)	①導入段階で ②終末段階で
何を	①子どもたちの言葉でめあてをたてる。 ②めあてを再確認したあと、まとめを行う。 文章で書くことが難しい場合は、学習の中で出てきたキーワードを確認する。
どのように	
↓	
4 最終的な改善策として3学期に取り組むこと	④
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの言葉でめあてを立てる。 ・めあてを再確認したあと、学習内容を振り返り、まとめを行う。 ・まとめと振り返りを書く時間を設ける。 	

3 取組の効果

- 各種学力調査における標準化得点による比較 (同集団比較)

R02 (5年生)



R03 (6年生)

三潞小学校の結果

国語

0.5 UP



算数

6.9 UP



京町小学校の結果

国語

3.5 UP



算数

1.5 down



- 調査研究に係るアンケート (教師用) 一部抜粋

Q: 学力向上プランに基づいた取組を振り返って (自由記述)

A: 児童が評価した結果を基に、各先生方が客観的に授業を振り返り、主体的に授業改善に取り組む姿勢が多く見られるようになった。(管理職等)

A: 改善策をベテランの先生方等と協議することで、様々な指導法等について学ぶことができた。(若年の担任等)

5 Q-Uテスト等を活用した児童の実態把握とは？ (城島小)



学力向上プラン視点3【学力基盤づくり】 Q-Uテスト等の分析を活用した児童の実態把握

令和3年度 久留米市立〇〇小学校 学力向上プラン	
<p>■視点1-①</p> <p>【中期目標】(成果指標)一人一人の表現力、話し合う力を高め、学び合う子供(成果指標)令和5年度の全国調査の標準化得点:国語 100以上 算数 100以上</p> <p>【短期目標】主体的に学習に取り組み、基礎・基本を確実に習得し、状況に応じて活(成果指標)令和3年度の実業調査の標準化得点:国語90以上 算数90以上 (令和4年度標準化学力調査【中1】において、標準化得点 国語95 算数95)</p>	<p>【授業づくり】</p> <p>【基礎・基本の確かな習得】</p> <p>【取組(指標)】</p> <p>①教科書について、7つのステップを履修した授業(内容の焦点化、またと主眼の一致した授業(1時間単位で習得する知識や技能を明確にするために、進捗にあわせて主眼を記入する))</p> <p>②算数科において、めあてもとに、主題につながる学びや自分の考えを導くことのできる、授業計画(1学期30以上:4段階学習計画)</p> <p>③教科書に明確に記述された事項、解決したことや考えを表現する力の育成(取組(指標))</p> <p>④算数科において、図や式に関連させ、自分の考えを導く活動やペアで自分の考えを伝える活動、生活とつながり返りの実施(毎時間実施)</p> <p>【成果(指標)】</p> <p>①児童評価(1学期30以上:4段階評価尺度)</p> <p>②児童による自己評価</p>
<p>■視点2</p> <p>【家庭・校内外連携との連携】</p> <p>【取組(指標)】</p> <p>①家庭学習の手引きをもとに、がんばり時間の実施(学期に1回児童の自己評価)</p> <p>②家庭の環境の実践(学期に1回)</p> <p>【成果(指標)】</p> <p>①カードの回収率(全クラス90%以上)</p> <p>②家庭学習の完全実施(10分間×学年が達成できる学年50%)</p>	<p>【学力基盤づくり】</p> <p>【取組(指標)】</p> <p>①2子どもの振り返りをもとにした個別指導の実施(児童用アンケート活用①:30以上)</p> <p>②ペアワークの実施(次、金曜日 算数の復習 実施率80%以上)</p> <p>【成果(指標)】</p> <p>①単元テスト(少人数クラスの児童 80/100点到達の児童 70%以上)</p>
<p>■視点3</p> <p>【学力基盤づくり】</p> <p>【取組(指標)】</p> <p>①2子どもの振り返りをもとにした個別指導の実施(児童用アンケート活用①:30以上)</p> <p>②ペアワークの実施(次、金曜日 算数の復習 実施率80%以上)</p> <p>【成果(指標)】</p> <p>①単元テスト(少人数クラスの児童 80/100点到達の児童 70%以上)</p>	<p>■視点4</p> <p>【学力基盤づくり】</p> <p>【取組(指標)】</p> <p>①基礎的・基本的な知識や技能を習得できていない児童に対する指導が不十分。</p> <p>②問いに対して自分の考えを導くときの読解力の不十分さ。本題に対して指導を考えた言語運用や態度の育成が不十分。</p> <p>③校内研修による教員の授業力と学校経営力のさらなる向上が課題。</p> <p>④校内研修による教員の授業力と学校経営力のさらなる向上が課題。</p> <p>⑤家庭学習の内容、取りまとめ方に学校での振り返りや対話を立てて自習する意識が低い。</p>

A学級の事例を基に、取組を紹介します!

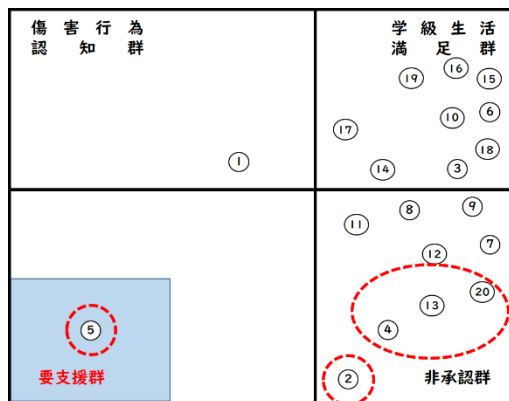
1 Q-Uテスト等の分析を活用した児童の実態把握



右の結果を基に、以下の手順で実態把握を実施

- ① 要支援群等の児童について学習状況人間関係等の把握
- ② 学年間等で状況を共有した児童理解
- ③ Q-U研修会を通して、日常の支援(励まし等の声掛け)内容の共有

A学級 1学期のQ-Uテスト結果



2 組織的な学習支援体制



上記の分析結果を基に、以下の手順で学習支援等を検討(要支援群等の児童を中心に)

- ① 定期的な打合せ(情報共有) 管理職、学年主任、担任、支援スタッフ

内容

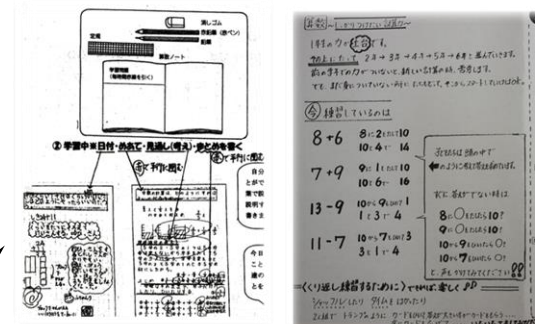
- ② 重点単元、少人数指導の編成、実態に応じた教材作成、指導法等についての協議や共有

協議等を経て作成した教材等

支援スタッフ会

学級担任

支援スタッフ

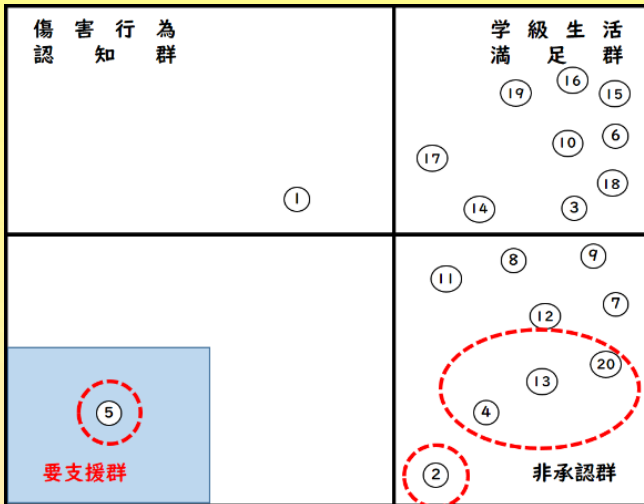


3 取組の効果

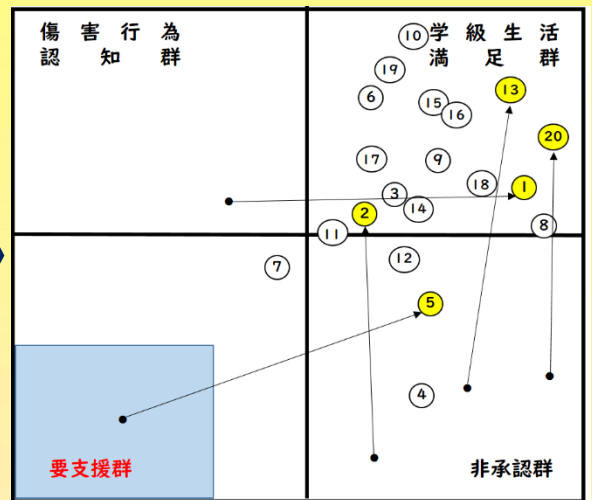
組織的な支援等を行うことで、満足群等の児童が増えていることがわかりますね!



A学級 1学期のQ-Uテスト結果



A学級 2学期のQ-Uテスト結果



□ 各種学力調査における標準化得点による比較（同集団比較）

R02（5年生）

R03（6年生）

城島小学校の結果

国語

3.5 UP ↑

算数

10.4 UP ↑

□ 授業評価アンケート（児童用）一部抜粋

Q：授業の中に、自分の考えを発表しようとする場面がありますか。

【4 そう思う 3 どちらかと言えばそう思う 2 どちらかと言えばそう思わない 1 そう思わない】

1学期
2.98

2学期
3.48

UP ↑



非認知能力に係る面もUP!

6 小学校4校の取組から見えてきた成果とは？



視点2

- 「授業スタンダード」のように、学習過程の枠に基づいた授業
⇒全職員で目指す授業の在り方を共有、実践

視点2

- 「授業スタンダード」と「授業評価アンケート」を関連させ
指導と評価の一体化を意識した授業改善

視点3

⇒児童による授業評価の結果を受けて、改善する視点が明確

全体

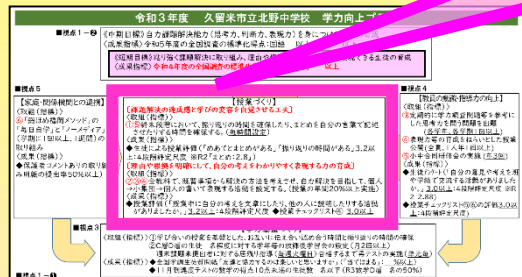
- 学年等による組織的・協働的な児童理解等を通じた学習支援の取組
⇒授業における個に応じた支援の在り方が改善
- 若年教員が児童理解や指導法等を学ぶ機会（校内OJTの推進）

7、8 青陵中、牟田山中、北野中の取組の共通点は？



学力向上プラン視点2【授業づくり】

毎日の授業で、考える活動と考えたことを表現する活動を設定



青陵中学校



牟田山中学校



北野中学校



問題解決的な学習過程と、
考えの言語化を重視しています。

青陵学び合いスタイル
(個人思考→小集団交流
→全体発表)

牟田山流学習の極意Ver. 2
(個人→小集団→個人
→振り返り)

個人→小集団→個人の、
書いて表現する活動

青陵中学校の取組

「青陵学び合いスタイル」を取り入れた授業実践

青陵学び合いスタイル

- 自分の考えをもつ。 **考える**
-「〇〇について考えるんだな」 **思い描く力**
-「〇〇とはどういうことだろう」
-「〇〇をもとに考えてみよう」
- 考えを交流する。 **比べる** **受け入れる**
結論と理由(根拠、原因、結果) **伝え伝える力**
-「〇〇というところが同じ考え」
-「〇〇というところが違いがある」
-「考えを合わせると…」
- 全体で比較・分類する。 **まとめる**
気づき深める力
- ふりかえりをする。 **ふりかえる** **つなげる**
やりぬく力 **動き出す力**

○根拠・原因・結果を意識して自分の考えを説明させる
→思考過程の説明を重視

OR3年度は、書く活動に重点を置く
1学期の反省をもとに、「振り返り」の書き方を統一

「〇〇〇なので、〇〇〇だとわかった。」
「〇〇〇なので、〇〇〇である。」



生徒の振り返りの内容が充実

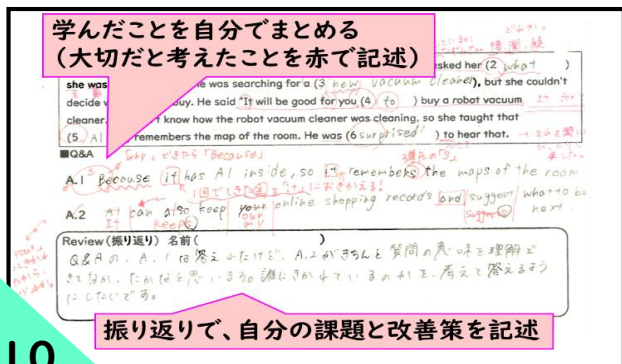
今日の授業で、前問の証明が、直角三角形の証明が分かった。
 $\angle DBA = 180^\circ - (90^\circ + \angle BAD)$ $\angle DBA = \angle EAC$ となり、 $\triangle BDA \sim \triangle EAC$ 。
 $\angle EAC = 180^\circ - (90^\circ + \angle BAD)$
 この説明が、「なるほど、分かった。」 「このようにして分かったか、これから頑張ることを記述」

「どのようにして分かったか」「これから頑張ることを記述」

北野中学校の取組

自力解決をめざして、「個人→小集団→個人」の、
書いて表現する活動を設定

○学んだことや課題・改善策を書いて表現



○授業チェックリスト(教師用)と授業アンケート(生徒用)の両方に、表現に対する質問項目を設定して、授業改善に活用

授業チェックリスト(教師用)
「生徒同士が相互に関わり合い、考えを広げるための工夫がなされている」(4段階評定法: 2学期)

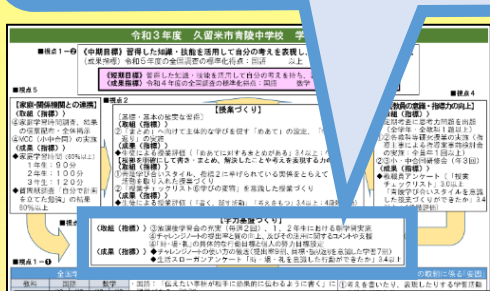
授業アンケート(生徒用)
「授業中に自分の考えを文章にしたり他の人に説明したりする活動がある」(4段階評定法: 2学期)

→ 2.8

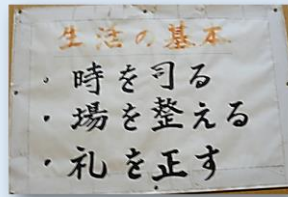
→ 3.1

学力向上プラン視点3【学力基盤づくり】

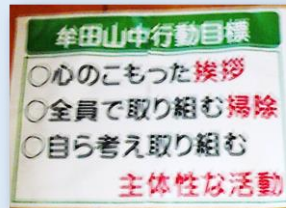
生徒の行動目標を柱とした積極的生徒指導



青陵中学校



牟田山中学校



北野中学校



毎日の指導の積み重ねが、リーダーとしての意識向上、生徒の成長に大きく関係しています。



青陵中学校の取組

行動目標への意識改革

青陵中学校生活スローガン

「時・場・礼」のレベルアップ!

時

時を司る

- ①常に時計を見ながら、次にとるべき行動を先読みする。(タイム席、給食準備と片付け、掃除5分前無言移動等)
- ②メリハリをつける。(集中と休憩の使い分けによる時間の有効活用)
- ③提出物の期限厳守(チャレンジノート、アンケートや出欠表提出等)

場

場を整える

- ①無言清掃と気づきの清掃
- ②集会時→無言移動、無言整列
- ③授業の準備や学び合いの雰囲気作り(今朝をしなければならぬのを考えよう。)

礼

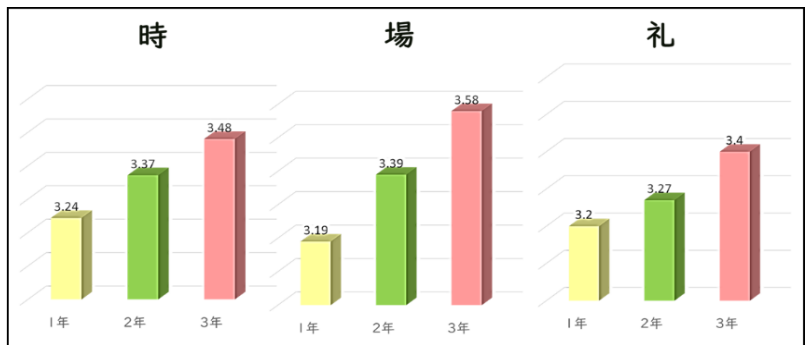
礼を正す

- ①挨拶 5S
Stop(立ち止まって) Smile(笑顔で)
Spark(元気に) Speed(自分から)
Spirit(気持ちをこめて)
- ②気持ちのいい返事は! ③「お願いします」「ありがとうございます」「失礼します」「すみません」言葉を適切に使う。

○3つの行動目標を学校生活のあらゆる場面で意識できるように指導

【時を司る】終日ノーチャイム

→時計を見て、次にとるべき行動を考える



学年が上がるにつれ、行動目標への意識が高まる



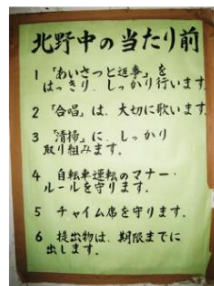
北野中学校の取組

職員全員による積極的生徒指導

北野中の3本柱

「挨拶・掃除・合唱」

北野中の当たり前



○職員全員の共通理解と毎日の丁寧な指導

○職員も生徒と一緒に「当たり前」として実践

○リーダー育成の観点から、生徒会活動と連動させ、生徒の主体的な取組に



合唱練習 (合唱委員)



無言清掃 (美化委員)

「北野中の三本柱」「北野中の当たり前」を柱とした積極的生徒指導の取組は、どのような点で学力向上につながっているか (調査研究に係るアンケートより)

- 授業規律の安定や授業時間の確保が、教師のゆとりや研修時間の確保を生む
- 教師の姿勢や指導基準の明確化と徹底ができる (行動目標が何であっても、教師の姿勢が大切!)
- 「無言清掃」は集中力をつけること (物事に集中する習慣) に、
「合唱」は他の生徒との協調や競い合う意識の向上につながっている
- 3年間「当たり前のこと」として続けることが、はじめ、丁寧に学ぶ姿勢、根気強さを育み、生徒の自立を促している

学力向上プラン視点5【家庭・関係機関との連携】

家庭学習を充実させるための工夫

青陵中学校



家庭学習時間の見える化

牟田山中学校



牟田山ノートの活用

北野中学校



「鍛ほめ福岡メソッド」の取組
⇒「毎日自学」と「ノメディア」
(保護者のコメントを記述)

令和3年度 久留米市立牟田山中学校 学力向上プラン



「授業との関連を図り、目的を明確にもたせる」「成果等をフィードバックし、意欲等の継続を図る」「保護者の評価を取り入れる」等の工夫が効果的です。

青陵中学校の取組

メディアコントロールチャレンジ週間の設定 家庭学習時間調査の実施と結果の見える化

○メディアコントロールチャレンジの取組
(年間3回、小・中合同で実施)

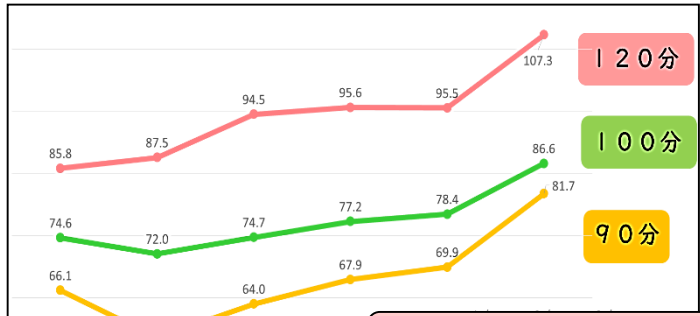
○毎週月曜日に家庭学習時間を調査
→結果をグラフ化し、職員室前に掲示

「メディアコントロールチャレンジ(MCC)週間」について

6月も半ばに近づき、いよいよ1学期の締めの時期になりました。また、学年末検査や受験を控え、学習にも一層頑張っていることだと思います。そこで、6月10日(木)～16日(水)までの1週間を、「メディアコントロールチャレンジ週間」と位置づけ、映像メディア(テレビ・DVD・ゲーム・パソコン・スマホ・タブレット等)に接する時間を自分でコントロールし、減らしていくことで、家族とのコミュニケーションの時間・本や新聞等の活字メディアに触れる時間・学習に取り組む時間を増やし、自分を成長させてほしいと思っています。

下のチェック表に1週間毎日記入し、終了後に「自己振り返り」を記入、保護者からのコメントをいただいた後、担任の先生に提出してください。
※提出期限6月21日(月)

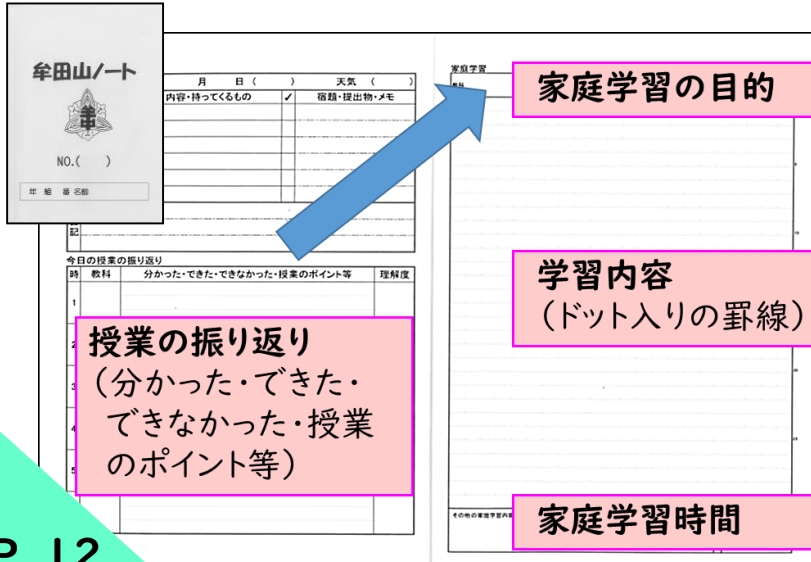
記入例	メディアに接した時間 ※各計を5分単位で	生まれた時間で遊んで過ごしたか テスト勉強、受験で英語、得意な本物の事を 読書、家事手伝い 等々
6月10日(木)	40分	
6月11日(金)		
6月12日		



家庭学習時間が増加

牟田山中学校の取組

牟田山ノートを活用した、目的ある自主学習



家庭学習の目的

学習内容
(ドット入りの罫線)

家庭学習時間

授業の振り返り
(分かった・できた・できなかった・授業のポイント等)

保護者アンケート
「牟田山ノートの取組は、生徒の家庭学習に役立っている」
(令和3年度：肯定的な回答)
→ 76.5%

P. 12

学力向上プラン視点4【職員の意識・指導力の向上】

定期考査における思考力を問う問題の出題

定期考査等の問題やその結果を分析し、改善を重ねていくことで、めざす生徒の姿や授業改善の方向性が明確になります。



牟田山中学校の取組

授業改善と定期考査問題改善を関連させる取組

校内研修 教科部会ワークシート①

■2学期の重点取組

- 国語
 - 意見と意見をつなぐ（～さんと～）
 - 適切な言葉の choice→想像力
 - 問い→適切な答え方（例：なぜ？）
- 数学
 - 条件不足、条件過多での問題提示
 - 「考え方」を表現する活動（数学的表現、思考力）
- 社会
 - 単元の前後に公立高校の入試問題にトワイ定期考査にも似た問題を出題する
- 理科
 - 読み取る（結果の時勢）→想像力→論理的に発見する力
 - 考察（これらも含めて） これから：書き方の練習が必要
- 英語
 - 本音の教員を多く設定（活動の必然性）のある会話、Show and Tell、Chronobookの効果的使用、自己表現（英作文）・スピーチ
- 体育
 - 具体的な言葉や専門用語を使って
 - Chronobookの活用（ソフ、ポイン）
 - アストのための保護にならないよ
 - 理想と現実のギャップをどう埋め
 - 解でいるのも大切
- 音楽・技術・家庭
 - 作り手の意図、成り立ちを考査
 - 日々の授業をどう日常生活で形にしてい
 - 日々の授業をどう日常生活で形にしてい

2学期の取組を振り返って

3学期の重点取組

2学期の重点取組
(実践)

2学期の取組を
振り返って(評価)

3学期の重点取組
(改善)

校内研修 教科部会ワークシート②

■定期考査改善のポイント

- 国語
 - 自分の考えをもつ時間
 - 内容をふまえた上で
- 数学
 - 数学的用語を扱った
 - 解く一解き方（考え方）
- 社会
 - 問題文へのルビ
 - 知識・技能
 - 公立問題に似た問題を出題
- 理科
 - 実験中に得た情報を問う
 - 教科書の基本問題+到達度テストの問題（見直しする習慣に）
 - 結果の考察を解き放つ
- 英語
 - 場面設定を工夫した問い（想像力、活用力、相手意識）
 - 長文に対応する力（前置詞で）
- 体育
 - イラストや時事問題を
 - 知識をきちんと理解さ
 - と解けない問題のバツ
- 音楽・技術・家庭
 - 意図をワークシートに添えて
 - 家庭で使われる電気
 - 基本的な公式を用いた

2学期の定期考査を振り返って

3学期定期考査の改善の

定期考査改善のポイント
(全教科)(実践)

2学期の定期考査を
振り返って(評価)

3学期の定期考査の
改善のポイント(改善)

○学期末の教科部会で定期考査問題を持ち寄り、各教科の重点取組と定期考査問題改善のポイントを関連させて協議

○学力向上コーディネーターが、評価・改善の視点から協議できるように、ワークシートを作成

【効果的だった点】（調査研究に係るアンケートより）

- 3観点をバランスよく出題することができ、めざすテスト内容が具体的に見えてくる
- 自分の授業を見直して、思考力問題を意識した授業づくりができる（授業と定期考査を一体として考えることができる）
- 各教科のめざす生徒像を学年を超えて共有し、意思統一した取組ができる
- 生徒も思考力を問う問題を意識して解くようになった
- 具体的に考え、記述できる生徒が増えた



中学校3校の取組の効果

※標準化得点=自校平均正答数÷県平均正答数×100

※各種学力調査（2年生：福岡県学力調査、3年生：全国学力・学習状況調査）

□各種学力調査における標準化得点による比較（同集団比較）

R02（2年生）➡ R03（3年生）

青陵中学校：**数学** 10.9 UP ↑

※無回答率（類似問題の比較）

国語 28.0% ➡ 0%

数学 36.6% ➡ 0%

牟田山中学校：**数学** 6.5 UP ↑

北野中学校：**国語** 0.3 UP ↑

数学 8.9 UP ↑

青陵中学校では、無回答率も減少しました！



Q:学力向上プランの取組(マネジメント)で効果的だったことは?

- A: 学力向上プランの取組を役割分担したこと。
係や個人ではなく、学校全体で取り組もうという意識が生まれる。(管理職等)
- A: 会議等は放課後の時間はなるべく利用せず、授業時間内に終わるようにして、先生方の研修等の時間を確保したこと。(管理職等)
- A: 校内研修との連携、教科部会の充実を図ったこと。
全職員の共通理解のもと取り組むことが、一番効果が上がる。(管理職等)
- A: 課題や目標を具現化でき、クラスを超えて実践できたこと。
視点がはっきりしていれば、職員の意識は高まると思う。(中堅教諭等)

9 中学校3校の取組から見えてきた成果です!



学力向上プランの視点から

- 視点2** ○ 授業で、自分の考えを表現する活動を設定すること
⇒思考を言語化することで、「深い学び」につながっていく
- 視点3** ○ 積極的生徒指導による落ち着いた学習環境づくりを行うこと
⇒丁寧に学ぶ姿勢、集中力等が身に付き、生徒の自立を促す
⇒教師のゆとりを生み、研修(教材研究)時間の確保につながる
- 視点4** ○ 定期考査等の問題改善と授業改善を関連させること
⇒思考力、判断力、表現力等を育成する授業づくりにつながる
⇒思考力等を問う問題に対応できる力を身に付けさせることができる
- 視点5** ○ 授業と家庭学習を関連付けて指導すること
⇒生徒が課題と目的を明確にでき、家庭学習の質と量が改善される
- 全体** ○ 学力向上プランで課題や目標を具現化し、それぞれの取組の視点を明確にすることが、職員の共通理解と実践を促す

10 3年間の調査研究の総括です！



【学力向上プランの作成と共有】

- 児童生徒の実態を踏まえた学力向上プランを作成することで、取組が具体化する
- 「作成を職員全員で行う」「学力向上プランを掲示する」など課題や取組を共有する工夫が必要である

【学力向上プランの実践】

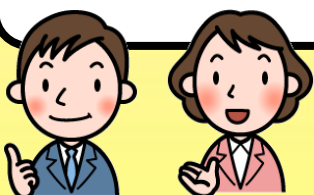
- 各取組を役割分担して進めるなど、推進体制を確立することは職員の協働意識を向上させる上で効果的である
- 学力向上プランの取組を協働して行うことが、児童生徒の学習意欲の向上や学力向上へとつながる

【学力向上プランの改善】

- 指導と評価を一体化させることで、効果的な改善策が見えてくる
- 授業、家庭学習指導、定期考査問題を関連づけることで、授業改善の方向性が明確になる

今後は・・・

- 職員の学力観の共通認識を図り、具体的な実践を協働して行うこと
- 授業アンケートの結果等から見えてくる課題と課題改善への取組がつながるように、改善の方策や手立てをより焦点化し、共通実践すること
- 校内研修や普段の授業において、検証改善（PDCA）サイクルのCA（評価、改善）を積み重ねていくこと



が必要です！

【令和3年度 学力向上研究班】

教育センター 指導主事 北島 志保、三池 暁久

学校教育課 指導主事 吉田 彩、松元 崇、須田 新之介

**学力向上調査研究協力校 合川小学校、城島小学校、京町小学校、三瀨小学校
青陵中学校、牟田山中学校、北野中学校**

**久留米市教育センター 福岡県久留米市南1丁目8番1号
TEL:0942(36)9777/FAX:0942(35)9930**